

議 事 録

件 名	久留米市セーフコミュニティ事前指導 防災対策委員会
日 時	令和4年12月21日(水) 12:30~13:00、13:30~14:20
場 所	えーるピア久留米 209研修室、210・211研修室
出席者	委 員 古賀委員長、矢野副委員長、高木委員、後藤委員、漆原委員、中村委員、藤原委員、平井委員
	事務局 佐野主幹、中山補佐、井上(美) / 溝江補佐、中河原主査
欠 席 者	諸永委員
傍 聴 者	無し
次 第	1. 正副委員長選出(209研修室) 2. 事前指導(210・211研修室) (1) 開会 (2) 出席者紹介 (3) プレゼンテーション発表 「防災対策委員会の取り組みについて」 (4) 質疑応答 (5) 閉会
質 疑	1. 正副委員長選出 委員長に古賀委員、副委員長に矢野委員を選出 2. 事前指導 チョ・ジュンピル 先生 日本は災害が多い国であり、気候変動の影響もあって大雨の被害が多く大変だと思うが、世界の中でも日本は災害への備えができている国だと思う。 その経験に基づいて、スライドの最後のページにある「自助・共助・公助」の3つの取り組みが必要であるという皆様からの報告は、シンプルだけれども、それぞれが重なる事で備えることができ、安全の確保ができるという力強いメッセージだと思う。 行政だけ、地域だけ、個人だけ、ではなく、それぞれが一緒に頑張らないといけないということを、一目で市民の方に伝えられるメッセージになっていると思う。 さらなる対策として、地域に住んでいる人以外の対応も記載してはどうか。 ①観光に来ている人(日本人、外国人問わず)一時的な災害弱者への対応 ②病院に入院している人や施設に入所している人の対応の補足 現在対策が無ければ、今後の検討事項として挙げてみてはどうか。
ワン・シュメイ 先生	チョ先生がおっしゃるように、一人一人が備える事で地域としても備える事ができると思う。 スライドにある調査結果の中で、10代~30代の若い世代が災害への備えをしていない理由は何が考えられるか。

議 事 録

委 員 ①	久留米市として、地域の自主防災組織への啓発や、防災士・防災リーダーの養成、地域での研修会の開催等を多い時では年に１００回開催している。 しかし、若い方にはそういった情報が届かないのかもしれない。 地域活動に参加している人には世代的な偏りがあると思う。
ワン・シュメイ 先 生	情報が届いていないかもしれないという課題があるのであれば、どうすれば若い世代へ情報が届くのかを、当事者である若い方たちに考えていただくと良いのではないか。 特に共助の場合では、１０代～３０代の若い世代は災害時に動くことができると思うので「地域と一緒に頑張ろう」という状況になると、とても心強いと思う。 若い世代に当事者になってもらい、情報が届いていないのであれば届ける工夫をしてみると良いと思う。 市民の人たちには、どうやって災害情報を届けているのですか。
委 員 ①	色々な手段があるが、SNS やメールを使った連絡方法や、携帯電話会社を通じて久留米市にいる人に災害情報を伝えるエリアメール、マスコミを通じて災害情報を流すというシステムもある。
白 石 先 生	海外の方や多言語でも対応しているのか。
委 員 ①	先程のハザードマップは多言語にも対応している。 福岡県が流している防災メールも多言語に対応している。
ワン・シュメイ 先 生	深夜だとテレビをつけている訳ではないので、川が決壊しているといった情報が入ってこないと思うが、そういった場合の対応はどうなっているのか。
委 員 ①	先程のエリアメールはとても大きい音で通知が鳴る。 久留米市が出す避難情報は、夜に災害の恐れがある場合、明るい時間帯に避難情報を出すという取り組みをしている。

指摘事項等	No	助言・指摘事項・課題
	1	観光に来ている人（日本人、外国人問わず）一時的な災害弱者への対応
	2	病院に入院している人や施設に入所している人の対応の補足
	3	若い世代に当事者になってもらい、情報が届いていないのであれば届ける工夫を試みる